

パネルディスカッション①

「胃がん検診の適正な受診間隔と受診勧奨のあり方とは」

座長 加藤 勝章（宮城県対がん協会 がん検診センター）

石本 裕二（公益財団法人ふくおか公衆衛生推進機構
福岡国際総合健診センター）

厚労省指針では胃がん検診は原則 50 歳以上 2 年 1 回、ただし、胃 X 線については当面は 40 歳以上 1 年 1 回の実施も可とされている。この「当面」をいつまで続けるか、1 年 1 回の胃 X 線検診を 2 年 1 回実施とした場合に如何なる問題が起こるか、また、検診間隔の異なる胃内視鏡検診と胃 X 線検診の適正な受診管理方法や受診勧奨の方策、さらには、リスク層別化との組み合わせなど、様々な観点からの議論が必要であろう。本パネルでは、胃がん検診の適正な受診間隔と受診勧奨のあり方について、行政や保健師、放射線技師など様々な立場からの演題を応募したい。